

関西電力株式会社  
取締役会長 八木 誠 様  
取締役社長 岩根茂樹 様  
高浜発電所長 宮田賢司 様

## 申し入れ書

福島原発事故からすでに7年半がたちましたが、この事故は、原発が人類の手に負える装置でないこと、一たび重大事故を起こせば、生活を奪い、職場を奪い、農地を奪い、海を奪い、故郷を奪い、人の命と尊厳を奪い去る装置であることを、大きな犠牲の上に教えました。

また、福島事故以降の経験によって、原発は無くても何の支障もないことが実証されました。とくに、今年の夏は酷暑でしたが、原発電力は2%程度であったにもかかわらず、電力不足にはなりませんでした。そのため、脱原発、反原発は圧倒的な民意となっています。この民意のゆえに、今、原発に固執するあなた方・原発を運転する電力会社からの顧客離れが進んでいるのです。

一方、福島原発事故の大きな犠牲と広範な反原発の声のために、民意を無視し続ける電力会社といえども、多額の費用を要する安全対策を原発に施さざるを得なくなり、安全対策費がとくにかさむ老朽原発の廃炉を決意せざるを得なくなっています。関西電力も、昨年12月に大飯原発1、2号機の廃炉を決定しましたが、全国でも、次々と老朽原発の廃炉が決定され、福島原発事故時に54基あった原発は、今や34基に減少しています。原発は、経済的にも成り立たないことを実証しています。

それでも、関西電力は、原子力規制委員長までもが「安全を保障するものではない」と言う“新規規制基準”に適合したことを拠り所にして、高浜原発、大飯原発の再稼働を強行し、今日、定期点検入りしていた高浜原発3号機の再稼働を強行しました。

脱原発、反原発の民意を蹂躪し、関西電力の目先の利己的利益のために、人の命と尊厳をないがしろにするものです。また、脱原発に向かう、世界の潮流に逆らうものです。

ところで、去る8月に再稼働した高浜原発4号機では、6月22日に、蒸気発生器伝熱管に傷が見つかり、8月19日には、事故時に原子炉に冷却水を補給するポンプの油漏れを起こし、8月20日には、温度計差込部から噴出した蒸気が原子炉上蓋から漏れでるトラブルを起こし、再稼働の9日間延期を余儀なくされています。

原発再稼働、再稼働は、電力会社にとって、きわめて重要で、本来なら細心の注意を払って行はずのイベントです。しかし、関西電力は、昨年の高浜原発3号機の再稼働時にもトラブルを起こし、8月の4号機再稼働時にも、稼働予定日直前にトラブルを起こしています。運転開始後33年を超えた高浜原発3号機、4号機のような原発では、いろいろな部分の老朽化が進んでいることを示し、その原発を運転しようとする関西電力に、原発は万が一にも事故を起こしてはならないとする緊張感がなく、そのような体制もないことを示しています。また、原子力規制委員会が「新規性基準」に適合とした原発が、再稼働時、再稼働時に次々にトラブルを起こしている事実は、「新規性基準」は安全を保障するものとは程遠く、規制委員会の審査は、いい加減極まりないことを示しています。私たちは、このような状況の中で、なお原発を運転し続けようとする関西電力を断固として糾弾します。

福島原発事故は、原発が重大事故を起こせば、被害は広域かつ長期におよぶことを教えました。高浜原発などの若狭の原発が重大事故を起こせば、若狭はもとより、関西、中部も高濃度放射性物質で汚染される可能性があります。京都駅は高浜原発から60数km、大阪駅は80数kmの位置にあります。250万人が住む京都府、150万人が住む滋賀県のほぼ全域が100km圏内にあり、この全域からの避難が不可能であることは自明です。琵琶湖の汚染は、1,450万人の飲用水を奪います。

私たちは、重大事故を起こせば極めて広範な地域の住民に塗炭の苦しみを与え、使用済み核燃料や核廃棄物などの人類の手におえない負の遺産を子々孫々にまで残す原発の稼働を座視することはできません。断固として、高浜原発を含む全原発の廃炉を申し入れます。

なお、貴社が、私たちの再三の危険性指摘を無視して原発を稼働し続けて、重大事故が起こった場合、それは貴職らの故意による犯罪であり、許されるものではないことを申し添えておきます。

2018年11月7日

原発うごかすな！実行委員会@関西・福井  
11月7日高浜発電所前抗議行動参加者一同  
(連絡先;木原壯林 090-1965-7102)